

長野県のシダ植物雑記(6)

大塚孝一

K. Otsuka : Miscellaneous notes on Pteridophytes in Nagano Prefecture (6)

31. 横内コレクション

故横内斎先生は長野県の植物を長年にわたって研究され、フロラを解明された。最近の著作として「信濃植物誌」(1983)を発表し、長野県の植物を集成された。

信州大学教養部では、寄贈された標本約25,000点にのぼる横内コレクションの同定作業が進行中で、終了後そのリストが作成される。

シダについては約700点あり、その検討した中で1~2注意したい記録について記してみたい。

(1) ハマハナヤスリ *Ophioglossum thermale* Komarov

本種はその名にあるように海岸近くの湿った砂地等に生育するハナヤスリで、県内の林床にも広く生育するヒロハハナヤスリに比べ葉は極端に狭い。主に海岸線沿いに分布するが、内陸部においても同様な環境のところに出現することがある。

だいぶ古い記録ではあるが、飯山市北竜湖付近で採集されていた。今まで知られていなかったが、再確認されることを祈りたい。

なお、コハナヤスリ *O. thermale* var *nipponicum*については本種と区別が微妙なところがあるが、横内斎著「下水内郡植物地理」の中に見られる。
[採集記録] 飯山市北竜湖付近500~600m(横内斎、1931. 7. 26. SHIN)

(2) ヒメウラジロ *Cheilanthes argentea* (Gmel.) Kunze

本種は葉裏が白色となり、葉身は正三角形状で、葉柄が特に長い。やや日あたりの良い石垣等に生育し、乾燥に強い。日本では岩手県以西の本州、四国、九州等に分布するが、西南日本と群馬県、埼玉県を中心とする関東地方に主に分布し、県内では東信地方に稀に産する。

県内の産地については、池田(1990)により解説されているが、それによると東部町和地区、滋野地区、小諸市懐古園周辺、臼田町新海地区等である。今回注目されるのは、県中部で採集されているものである。

[採集記録] 塩尻市釜ノ沢(横内斎、1979. 7. 21. SHIN)

32. ハイホラゴケ *Lacosteopsis orientalis* (C. Chr.) Nakaike

本種は根茎に密毛を有するコケシノブ科の種類で、アオホラゴケに似ているがより大きく、葉肉中に遊離する偽脈がない点で、アオホラゴケと明らかに区別できる。

ハイホラゴケの記録を見ると「下伊那の植物」に、ヒメハイホラゴケが「下水内郡植物地理」にそれぞれ記載されているが、確実な証拠標本は確認されていなかった。信大に納められている標本を検討した中で、チチブホラゴケとラベルされていた本種の標本を見いだした。県北部の県境千曲川流域からはヒメハイホラゴケが産することも予想され、再発見を祈りたい。

[採集記録] 下伊那郡天竜村満島~鶯巣(浅野一男、1987. 10. 25. SHIN)

33. フモトシダ *Microlepia marginata* (Panzer) C. Chr.

本種は、日本では福島県以西の本州、四国、九州に分布する暖地性のシダで、やや乾いた林床にも生

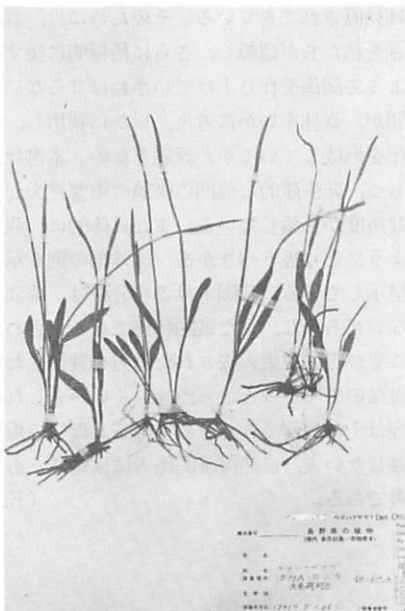


写真16 ハマハナヤスリ



写真17 ツクシャブソテツ

育する。葉柄、葉身とも毛が多い。

本県では、下伊那南部にごく稀に自生する。また、軽井沢からも採集されている。今回、木曾からも採集された。

〔採集記録〕 木曾郡山口村黍生（大塚、1990、10、28）

34. ツクシャブソテツ

本種はヒロハブソテツの変種で、羽片の基部が楔形で、耳垂がない。羽片の数も多く、8対以上となる。

千葉県以西の本州、四国、九州に分布し、本県からは北部姫川流域から採集されている。今回、木曾から採集された。

〔採集記録〕 木曾郡山口村黍生（大塚、1990、10、28、TNS）

35. ホクリクイノデ *Polystichum* × *hokurikunense* Kurata

本種はアイアスカイノデとサカゲイノデとの雑種で、前種によく似ていて、葉柄基部に黒褐色のリン片があるが、中軸リン片は幅広くなり、下向きみのリン片が多くなる。タカオイノデ（アイアスカ×ツヤナシ）にもよく似るが、中軸リン片はより狭く、卵状皮針形～皮針形である。

木曾山口村黍生には、アイアスカイノデとイノデモドキが豊富に自生するスギ林があり、先にそれらの雑種であるハタジュクイノデを見だしているが、ここには、サカゲイノデ、ツヤナシイノデ、サイゴ



写真18 ホクリクイノデ

クイノデも見られることから、それぞれの雑種の存在も予想された。

ホクリクイノデもそれらのひとつであるが、アイアスカは県南部に、サカゲイノデは県北部に多いため混生地は少ない。木曾は貴重な新産地である。

〔採集記録〕 木曾郡山口村黍生（大塚、1990、10、28、TNS）

36. ナメライノデ *Polystichum* × *okanum* Kurata

本種はイノデモドキとサカゲイノデとの雑種で、前者に似ているが葉軸下面のリン片は幅広く、圧着下向きみとなる。リン片の辺が著しく細裂するものイノデモドキの性質を受けついでいる。後者に比べ、リン片は小さく、葉面にやや光沢があり、また、葉の色はより緑が濃い。葉身下部のソーラスは小羽片の耳片にやや優先的につく傾向がある。葉柄下部には黒褐色のリン片はでない。

ナメライノデのナメラは、山口県の滑（なめら）に由来し、1955年に同地で発見されたものである。

今回、ホクリクイノデと同じ場所で採集されたが、ツヤナシイノデモドキ等その他のイノデ属雑種の存在も期待される。

〔採集記録〕 木曾郡山口村黍生（大塚、1990、10、28、TNS）

最後に、ツクシャブソテツ、ホクリクイノデ、ナメライノデは、国立科学博物館の中池敏之博士に同定していただきました。記して感謝いたします。